

「物語の数だけ、いろんなニッポンの姿がある～モノがたりワークショップ」

日 時:2025 年 9 月 27 日(土) 13:00-16:30

会 場:ピアザ淡海 2 回 207 会議室

参加者:22 人

サポーターとして、県国際交流員、外国ルーツの若者支援団体
関係者(ブラジル、アメリカ、中国にルーツのある方々等を含む)

1. 自己紹介タイム

各自が A4 サイズの紙をタテに3等分したものに、所属・なまえ・最近のマイブームを書いたものを用意し、それを使ってグループ内で自己紹介を行った。

2. 本日のねらい・流れ・「文化的アイデンティティ」の説明

《ねらい》

- 参加者自らの文化的アイデンティティやルーツを通して、「日本」とのつながりや関わりを『物語(自分史)』として語ることで、参加者同士の自己理解および相互理解を促進する場とする。
- それらの物語を『モノ(写真などでも可)』で表現することにより、参加者の心の中にあるさまざまな「日本」の姿を可視化し、現在の社会や文化の多様性を浮き彫りにする。

【文化的アイデンティティとは…】 *今日のワークショップの中での定義

これまで所属してきたコミュニティや集団の中で培った経験や知識に裏打ちされた“自分なりの価値観や概念”のこと

一方、文化的ルーツとは…

「どんな環境や社会で育ってきたか」「どんな文化や習慣を受け継いできたか」という、自らの価値観や概念(文化的アイデンティティ)を形成するうえで、影響を受けてきたコトやモノ(住んでいる地域、出会ってきた人や食べてきたもの等)

《フォトランゲージ》「私たちは“文化”の中で生きている」

① これから紹介する 10 枚の写真にある共通点は、なんでしょう？

写真の例) 草原、砂漠、豚、木製の箱、川 など

答え) トイレ

- ・ トイレとは、「排泄や排尿のためにしつらえられた場所(施設)」のこと
- ・ 地域によって、形状も捉え方も様々である。
- ・ 「トイレ」という概念は、それぞれの環境や文化の中で形成される。

→サハラ砂漠に旅行した際にトイレをどこですればよいかガイドに尋ねたら、「Anywhere」という回答が返ってきた経験がある。

- ・ つまり、それぞれが生きてきた社会において培ってきた経験や知識によって、それが「トイレ」であると認識することができる。



② 「ウサギとアヒル」 錯視の絵を紹介

- ・ 私たちは、自分が生きてきたコミュニティや集団の中で共有されてきた文化（伝統や習慣）の中で生きている。
- ・ 文化的アイデンティティとは、そうした文化の中で得た経験や知識によって生み出された「価値観や概念」の総和であり、私たちは意識して、あるいは無意識にその影響を受けている。
- ・ それは、コミュニティや集団に対する帰属意識や愛着にもつながる。
- ・ 一方で、異なる文化を目の当たりにした時に違和感や葛藤が生じることもある（カルチャーショック）。

《クイズ》「在留外国人の数」

Q. 日本の人口に占める割合は、_____人に一人？

A. 32人に一人

日本は今や、多文化共生社会。

自らの文化的アイデンティティやルーツを振り返り、また相手の文化的アイデンティティやルーツを理解することは、お互いのことを理解しあうことに結びつくのではないだろうか。

3. 自らの文化的アイデンティティやルーツを振り返る

「ライフラインチャートの作成」(個人ワーク)

自分の人生をおおよそ5分割して、「当時の性格や関心事」「当時の所属先やコミュニティ」「当時、影響を受けていたもの」「当時、影響を受けていた人」「当時、大事にしていた価値観や習慣（座右の銘や格言）」「転機となった体験（新たな価値観に目覚めたきっかけ）」「異文化体験・カルチャーショック（受け入れられなかった体験など）」について、表に落とし込む作業を各自で行った。

「ライフラインチャートの共有」(グループワーク)

グループの中で、それぞれのライフラインチャートを使って発表した。

4. モノがたりワークショップ

「モノがたりを創る」(個人ワーク)

- それぞれが持参したモノや写真を出し合う。
- 自分が持参したモノと、自分以外の人が持ってきたモノにそれぞれ『モノがたり』を描いてみる。
- キャプションカードの作成をする。あとで、モノの展覧会を行うので、それぞれのモノに「タイトル」と「リード文（エピソード）」を記入する。リード文には、そのモノと「ニッポン」との関わりや込められた「日本らしさとは?」、なぜこれを持ってきたのかなどについて記載する。

※ 自分が持ってきた以外のモノのキャプションカードを作成する場合は、持ち主になりきってもよいし、自分なりに感情移入して（自分のエピソードとして）考えてもよい。

「モノがたりを発表する」(グループワーク)

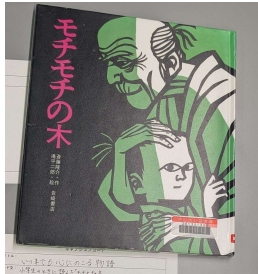
- それぞれが創作した『モノがたり』をグループ内で発表する。
- まずは、自分が持ってきた以外のモノに対して考えた『モノがたり』から発表したあと、持ってきた本人が発表する。それぞれ考えたエピソードや思いを比べてみる。

展覧会（他のグループとの共有タイム）

他のグループの作品を見てまわった。



キャプションカード作品紹介

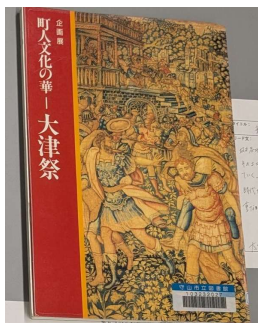


「いつまでも心にのこる物語」

小学生の時に読んだ「モチモチの木」。大人になってから読み返してみると、子どもの時とは違う新しい発見がある絵本です。「モチモチの木」は、豆太やおじいちゃんにとって、実りを与えてくれるものであり、夜には豆太がトイレに行けなくなるほど怖い感じのするものであり、豆太が夜中おじいちゃんのためにお医者さんを呼びに勇気を出して行動したときには、灯が付いたみたいな明るさをともししてくれたものであったりしました。「木」（自然）を生命ある存在としてとらえる日本の自然に対する感性が浮かびます。また、5才になる豆太はおじいちゃんと一緒に寝て、トイレにもついてきてもらおうというのも、日本の子育てを感じるところです。おじいちゃんの言葉やお医者さんの描写も、古い時代を題材としている絵本だと思うのですが、なぜか懐かしさを感じるのも不思議です。

「大切なもの」

外には不可思議がいっぱい。夜には恐ろしさがいっぱい。でも、そんなものを吹き飛ばす。もっともっと大切なものがすぐそばにある。



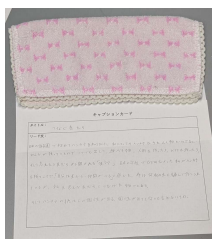
「開かれた心と心意気」

「大津まつり」の宵宮コンサートに参加したことがきっかけで「大津まつり」を調べました。江戸時代約140年かけて13基の曳山とからくり人形がつけられたこと。それぞれの曳山には物語があること。その物語に合わせて、からくり人形がつけられたこと。曳山の物語は大きく分けて3種類あること。1つ目は「古事記」や「源氏物語」などの日本の古典。2つめは「故事」や「三国志」などの中国の古典。3つめは、はじめ中国古典であったものが日本に来て変容を遂げたもの。曳山の装飾も見事で、唐織などの外国製の幕類も多く、中にはベルギーのブリュッセル製もあること。江戸時代、大津の人々の外国へのあこがれや開かれた心を感じますし、それらをつくりあげた町人の心意気を感じます。「大津祭」を今まで続けていることがすばらしいなあと思います。

「親から子へ、子から孫へ、つながる想い」

日本各地で行われる「祭り」。その土地で生きてきた人たちの思いや熱が次の世代へと受け継がれていく。家族の幸せを願い、地域住民の幸せを願い、様々な時代を超えてきたお神輿。お囃子の技術とともに人の想いが重なってきたからこそ、見る人を惹きつけるものとなるのです。

太鼓の音に心躍り、自然と体が動き出す。そんな日本の祭りが好きです。



「つなぐ系たち」

日本の保育園で初めてハンカチを知りました。私にとってハンカチは手をふくものだけでなく、みんなが持っているのでもいつでも出して、遊べる物。人形を作ったり、バナナを作ったり。そして、忘れたら友達から聞かれる「使う?」。日本の学校でなじめなかった私がハンカチを持つことで「自分は友だち、仲間がいる」と感じた。布は何本もの糸を編んで作られているが、私を色んな友だちとつなげた物でもある。

そして、ハンカチの柄は人の個性が出る。個性が出ても何とも言わないもの。



「命の源」

祖母の味でもあり、母の味でもあるおみそ汁。朝は一日のエネルギーチャージに。夜は一日がんばった自分をほっこり休めるために。海外旅行時にも持っていくことも。家族を感じ、日本を感じる味。今の自分の味覚の根っこは、おみそです。

「ほっこりするんだよね」

海外旅行に行くんだから、現地の料理を食べるんだ、日本料理店になんか行かないぞ、マクドナルドやスターバックスなんか入らないぞ。でも帰国したその日、口にしたら、ほっこりするんだよね。

「私と友だちを助けてくれたもの」

インドのスタディーツアーに参加したとき、一緒に参加していた私の友だちはある日、お腹をこわし、食事が取れなくなりました。そのときに、私が日本から持ってきていた「あさげ」や「サトウのごはん」を食べて元気を回復しました。私は日本食が大好きなので、海外に行くときは「あさげ」や「サトウのごはん」などを持っています。私の心の安定につながる必需品です。



「回せる人はどれくらいいるの？」

これを回せる人はどれくらいいるの？一年に何回これを触るの？生活に入りこんでる？

海外研修に出かける前、急に生徒たちが練習しはじめる。これを日本らしさと信じこんでいるから？

でも、逆を見たことがほとんどない。アメリカから来たマイケルはカウボーイの真似をしなかったし、ブラジルから来たカルロスはリフティングをしなかった。

「旅する一つのこま」

こまは自分の手で回せる。そのこまを他の人の手に移すと盛りあがる。そして、また違う人の手に移すと倍の盛り上がり。たくさんの人が一つのものに「回りつづけて」「生きつづけて」と願う。そして、違う場所に行けば行くほど「すごい」

言葉が違うくても、外見が違うくても、食べるものが違うくても。子どもたちはそれを気にせず笑っていた小学校時代。



「12.30～31」

世の中の流れに反して、毎年作っています。自分で作らずに買ってきたものが3つあります。作るのに、だいたい2日(12.30～31)かかります。実は、1つ材料を買っておきながら、作るのを忘れていて、1/2にエビを料理して追加しました。

「昔ながらのおせち料理」

日本のお正月といえば「おせち料理」。子どもの頃は、母や祖母が作ってくれました。昔は苦手なものも多かったけれど、今では美味しくいただけるようになりました。最近は洋風なものを取り寄せることも多いですが、「昔ながら」のおせち料理が恋しくなる時があります。



「その土地 丸ごと 味わおう」

遠征で訪れた新潟でフラッと入った居酒屋での思い出。何かツマめるものは…と頼んだのが、日本でも今ではめずらしい「クジラの味噌漬け」。日本酒との相性がバツグンで、「うまあ」しか言葉が出てきませんでした。その土地土地の日本酒と郷土料理の多様性を楽しめるのも「日本らしさ」のひとつ!?

「これは何だろう？」

どこかの料理屋さんのカウンターのような、何かのお肉とからしがあって、その横には3種類のお酒が。多分違う種類でしょうが、並んでいます。どんな味がするのでしょうか。



「汗、しみてます。」

汗っかきな私には、ハンカチは小さすぎて、タオルはなかなか乾かない。モダンなデザインも多く、様々な用途に使え、比較的安価なので、海外の方への贈り物としても最適です。染め方や模様によって日本らしさがあり、様々な用途に使える点が日本らしいと思います。



彦根城のキーホルダー

「県民」

親友を滋賀に案内しました。滋賀に住んでいる「外国人」だけでなく「人」です。国際的な経験。私も日本、滋賀の文化、生活、結構慣れてきた。同じ気持ちをしている外国人が多いはず。日本が好きな人として、日本がどんな国になってほしいかの一例。

「修学旅行のお土産」

中学3年生の修学旅行で自分に買ったお土産。友達とここで大笑いしたとか、好きな人にこんなこと言われたっけとか、城に関係ない思いでもよみがえる気がする。

「思い出のキーホルダー」

旅行に行ったとき、小さなものを買うことにしています。キーホルダーやマグネット、ストラップや国旗などです。1つあれば十分です。いちばん大切なのは形にならない思い出なのですから。



判子

「時代遅れの形式美」

契約に合意するときに押すのは、このハンコです。デジタル化が進む現代で、ビジネス面では効率が悪いと指摘があります。効率にとらわれず、昔ながらの形式美に日本を感じます。

「何かが始まりそう」

中学校を卒業した時にもらった印鑑。たしかそれを使って通帳を作ったような記憶があります。今でも机の引き出しに、もう少し割れてしまったその印鑑が残してあると思います。もう使うことはないのですが、人生初めての印鑑です。

「判子」

成年に慣れた気持ちがして、それに「異文化」かなと思った。しないといけないことだったから、判子を作るのは人の人生の中で大事なときかと。効率的より文化の代表的なことかもしれない。



お弁当箱

「きっちりぎっしりお弁当箱」

いろいろ詰めて「きっちり」しているお弁当箱。日本の社会に対する気持ちに合ってる。アメリカに住んでた時、キャンプとか行くと、自分はお弁当箱を持っていった。(周りは Ziploc に入れたサンドイッチとかだった。)その時、自分の「日本」の部分を感じた。小学校からお弁当の日があったので、自分にとってかなり付き合いが長いもの。今、子どもにも作るの、自分のこだわりを若干自覚する。(ふつうのお弁当ですが…)

「(家族の)健康を考える愛情弁当」

子どもの行事、家族で外出、学生のランチ、社会人の昼食は、お弁当を作って持っていくことが多いです。お弁当を作るときは、子どもや夫の健康を考えて栄養バランスのとれたごはん、おかずを入れるように工夫しています。お弁当と一緒に水筒にお茶を入れて持たせることによって、ジュースを買わなくてもよいようにしています。キャラ弁も流行しています。でも、外食や総菜の方が温かく美味しくて喜ばれたりします。

「弁当箱」

1. 日の丸弁当、おにぎり弁当(俵) 2. アルマイト製 3. 冬場は石炭ストーブであたためる 4. ふたの裏に海苔べた 5. 残りご飯に茶漬け

「親と子のコミュニケーション」

お弁当を子どもにつくるけど、食べ残してくるとがっかりしたり、せっかくなつくたのにとったり。きれいに食べてくれるとうれしくなったり、毎回それになったり。忙しい中、愛情をこめてつくったお弁当には思い入れあり!もうつくれない!!笑



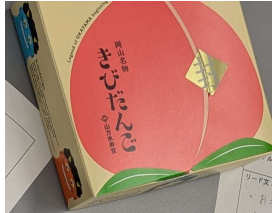
「みんなの 私の 命を守る袋」

日本といえば災害。何度も起こる災害を乗り越えることで、思いやりや絆の大切さに気づきました。将来にわたって大切にしていきたい気持ちです。人のため、自分のため、みんなのために災害に備える思いを大切にしましょう。



「高知と言えば…」

「べくばい」という名前のゲームは有名。3つの異なるサイズのカップ。3面コマを回す。コマの上に現れる杯から酒を飲む。



「サプラ～イズ!」

お土産のパッケージがかわいだけでなく、細部までのこだわりがある。「人に最大限に喜んでほしい」相手のことを考えているというところが日本らしい。簡単なつくりでもいいところを複雑に細工している。(細かいところまで気配りされているのは日本のすばらしさだと思ったから。)

「桃太郎」

桃は中国文化の吉祥模様。遣唐使の時代から交流があり、多く学び合いながら、いまだに理解しあえていない所もあり。だから一生学べるな。

「—」

夏休みだから、岡山まで行ってきた。その「きびだんご」はお土産で、日本の「何を相手にあげる」とか、「感謝の気持ち」とかを示す。また、団子や餅とかは日本らしい。がんばり屋さんに見えるから。ストレス溜まっちゃったり、集中するときとかにお菓子を食べるし、かわいいものも好きそう。

「パッケージング」

1. 名は体を表す 2. 折り紙が好き 3. 色に興味がある 4. 少しのトリック

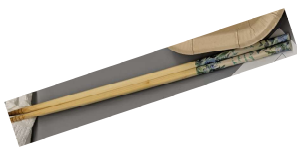
「こどもに伝える童謡」

桃太郎の話とか、他にも日本の童謡が(外国人の)夫に通じないので、それを子どもに伝えるのは私の中の「日本」の部分。きびだんごって何なのかよくわかってないけど、何となく共通の理解があるところとか「日本」っぽい。



「郷(さと)の織(おり)」

手に取るだけでほっとする。何度洗ってもくたびれない。湿気の多い国でもすぐ乾く。日常を大切に暮らす人の知恵を感じる。

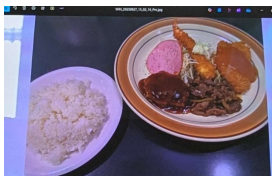


「日本の『シンプル』で『効率的』のかたまり」

家には料理を作るときも、食べる時も、いろんな道具やトングとかを使います。しかし、ある日、日本のTVを見た時、ほとんどの作業は「おはし」で行うと気づいて、気になりました。形もシンプルで、いろんな場面で使いやすいし、洗いやすいから便利です。そんな「効果的」「無駄のない」「エレガント」とかの価値観は、まさに日本のライフスタイルだな～と思います。

「手先の器用さ」

「箸」だけで、食べる箸と料理をする箸とでこんなにも長さがちがう。長い菜箸は使いにくいはずだけど、器用に使って料理をしている。使いにくいと思ったけど、、、料理をするときは熱いから長いと安心!

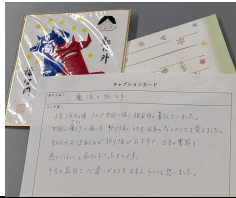


「大人のお子様ランチ」

旅行が好きで、海外にも行く。ただ、日本食が好きなので、3日目にはもう和食が食べなくなる。伝統的な和食も食べたいが、自分はこの写真のようなものが食べたい。トラディショナルな和食ではないが、白ご飯、エビフライ、ハンバーグ、千切りキャベツとハム…子どものころに食べたかったものがすべて乗ったこのプレートに「なつかしさ」を感じる人も多いのではないのでしょうか。

「元気になるごはん!実はすごいこと!」

日本は好きなものを好きなだけ食べれる人の割合が世界的に見たら、まだ多いかなと思います。豚肉、エビ、牛肉など、宗教的な制限がある方も少ないので、何でもワンプレートにまとめてしまうのも日本らしいと思います。



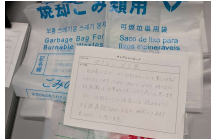
「魔法の紙と手」

小学3年生の頃、一人で中国に帰り祖父母と暮らしていました。中国の厦門へ届いた折り紙にとても日本の懐かしさを覚えました。知人のおばあさんが折り紙がお上手で、日本の季節を感じてほしいと届けてくださったものです。手先の器用さ、心遣いがとても日本人らしいと思いました。

子どもだけの下校風景

「集団下校」

みんなで歩いて登校して、みんなで下校するこの光景は、多くの国では見られません。近所の人に見守られながら「おはようございます。」と登校するのは、日本ならではの光景。



「やさしいゴミ袋」

自治体によって、ゴミ分別のルールは異なりますが、リサイクルしやすいために細かく分けて捨てるようとする意識は世界的にも、かなり高いと思います。また、外国ルーツの住民にも読めるように多言語標記されているのも、他国ではあまり見られないと思います。

お酒の自動販売機

「便利・早い・安全」

どこにでもあるのが当たり前の自動販売機。たばこの自販機はなくなったけど、今でもお酒が買えるのは、日本ぐらい…？ ドロボーに盗まれることも、そんなに心配されていない…？ 労働者不足を補うためにも、一役買っているのか…？ 種類も豊富（餃子、ケーキ etc.）でも多すぎて、電力使用量も多いから、環境の視点で見ると…？ この先は、どうなる？

お墓参り

「命のバトン」

お彼岸、お盆には、墓参りに行きます。墓を掃除、お花を供えて、念仏を唱えます。その時には、自分をかわいがってくれた祖母の顔が、必ず思い浮かびます。ご先祖様を敬うことで、自分につながれた命のバトンを感じます。孫が最近できたことで、さらにバトンがつながったと強く感じます。

お地蔵さま

「今日も一日健康で過ごせますように」

私の家の前にあるお地蔵さんを毎日欠かさずお世話している近所のおばあさんがいます。水をきれいなものにし、お花を換え、手を合わせている… それを毎日続けるのは簡単そうで、とても信念のいることだなと感じます。“八百万の神”を信じる日本らしさが表現されているようです。

「お地蔵さま ありがとう」

行き交う人々を静かに見守ってくださっているお地蔵さま。私の家に実はくっついていて、母が毎日、お水を換えています。お花も供えています。道沿いにお地蔵さまがいたら、必ず一礼して心の中で言うのです。「いつも見守ってくださり、ありがとうございます お地蔵さま」

「まちを見守るお地蔵さん」

まちのあちこちで見かけるお地蔵さん。幼いころ、祖母や母から「悪いことしたら、神さんが見てはるで…」と言われたので、なんとなく善い行いをしないとけないという感覚が身についている気がします。実家の自治会では、夏に子どもたちを集めて地蔵盆が行われ、遊びや映画、みんなで食べるスイカなどが記憶に残っていますが、とうとう昨年、子どもが少なくなり、地蔵盆もなくなってしまったそうで残念です。

「クッションワード・ひかえめ」

おじぎ すみません ごめんなさい

？

1. 対人関係を和らげる 2. 相手へのリスペクト 3. 不適切なことは起きないと思っている

5. まとめ

ファシリテーターから

本日の活動は…

1. 自分の文化的アイデンティティやルーツを振り返る
2. みんなの文化的アイデンティティやルーツを共有しあう

同じ経験、同じものでも、見え方や感じ方（アイデンティティ）に違いがある。

⇒ 相互理解の楽しさと難しさの両面がある。



グループ発表（グループでの感想共有のあと、全体への共有）

※発表者の表現のまま掲載しています。

- それぞれの経験等について話したが、共通点として見えたのは「人との関わり」が私たちを形作っているということ。出会ってきた人はそれぞれ違うし、それぞれが見てきたものも違うけれど、やはり人との関わりを通して、自分たちの中に何かが起こっているということが確認できた。木に例えると、幹は同じだけれども、見る世界や習慣などはそれぞれ異なる枝葉のように持っている。違う枝を持っていたとしても問題ない。違う経験などがあっても、問題ないってことを感じた。
- 日本らしさとか良さとかってというのは身の回りに当たり前すぎて、気づかないものがたくさんある。例えば、集団登下校は日本らしさ。当たり前すぎて何とも思っていなかったようなことが、今日はいろんなところと対比したり、俯瞰したりして見られる人がたくさんおられたので、そこに焦点を当てることができた。また生活や文化とすごく密接に関わってる「食」。特に日本の食の安全性について話した。給食は、食の安全性に対して、ものすごく気をつけているってところが日本らしさの 1 つかなっていう風に考えた。給食はとっても美味しくて安全。ただ、本当にすごくいろんな人が気をつけて出されているという話をした。
- 今日ここに集まった人たちは、やはり海外に興味がある方が多く、それぞれどこで海外と繋がったかとか、どこで転換期があったかがバラバラですごく面白かった。自分の人生を語ることはあまりないが、そうすることで、なぜか自分はこれ結構好きなんだとか、特別だったんだと気づけるので、すごく楽しかった。
- 日本はすでにいろんな面を持っているというのを改めて実感した。伝統も大事にしてるし、地域差・地域の文化も大事にしている。地酒を飲み比べるとか、その地域の料理を食べ比べるとか、そういった地域それぞれのアイデンティティを大事にしているってところ。ジエゴさんに聞くと、ブラジルでもそういう地域らしさはあるけれども、やっぱり日本の方がより大事にしている感じを受けるという話もあったので、地域ごとの文化を大事にすること自体が日本らしさってところなのかなと話していた。
- いろいろなモノがあって、同じものや被ったものがなかったが、なるほどと納得するものが多く、違和感を感じるものはなく面白かった。もし、ブラジルボックスみたいに、「日本ボックス」をつくとしたら、何が入るのだろう、何を入れるだろうという話をしていた。それぞれが思う「日本らしさ」をある意味捉えにくかったり、なるほど…と新しい視点を得ることができたりした。

さいごに、サポーターとして参加してくれた外国にルーツをもつ大学生がこんな感想を述べてくれました。

「私は両親から、日本の人たちは私たち移民には興味も関心も持っていないと、ずっと聞かされてきました。でも私は、これまでいろんな方たちと出会い、今日ここで私たちにとても関心を持ってくれる人たちとこうして交流する機会に触れることができていたので、自分自身の経験を私の周りにいる外国にルーツを持つ若い人たちに伝えていきたいと思います。」



参加者の感想（一部抜粋）

- 本日のワークショップでは、『人は人との出会いによって自分というものをつくりあげている』ことに気づいた。その中に日本らしさがあったり、その人が生きてきた土地らしさがあったりする。日本にも世界にもステキなものが溢れていて、違和感を感じるものであっても、なるほど〜と、ただただ了解していきたい。多文化共生において、「相手のことを理解する」という言葉をよく使うが、実際はその人の一部分に軽く触れるような表面上を少し知するような関わりで終わってしまうことが多い。今日はお互いの人生の違いや重なりを見つめ、どこにルーツがあるかという枠組みではなく、互いを 1 人の人として尊重するあたたかな時間をともに過ごすことができた。

日本人でも一人ひとり生き方がちがう。
外国人でも一人ひとり生き方がちがう。
ちがうということが同じ。

言葉遊びのようだが、ちがうことが不安を招くのであれば、捉え方を変えてみるとつながりや同じところが見つかるのではないかと考えた。内省とともに価値観を広げられるステキな時間となりました。
- 教材作りをする上で、自分史を知っておくことが、自分の立ち位置を確かにすること、教材のねらいや効果を計りうかがうことにつながるのだと気付かされました。
- あっという間に時間が過ぎました。移民の方々のお気持ちを聞くことで、海外を訪問したときの自分の気持ちを思い出すことができました。自分の文化的ルーツを振り返るワークでは、これまでの自分を振り返る良い機会となりました。それだけにとどまらず、お隣に座る人の考えや人柄を知ることにつながり、とてもいいワークでした。
- ライフラインチャートから持ち寄った資料を使ったワークへ、という流れがとても自然で良かったです。漠然とした記憶はあっても、あのよう自分の一生を振り返るのは初めての体験でした。同じグループの方との思わぬ共通点もあって、楽しいひと時でした。また、サポーターとしていろいろな活動をされている人たちと出会えて、もっと人の輪が広がれば、と思いました。今日のワークショップから、これからの教材づくりに向けてどのように発展していくかが楽しみです。
- 実際の物を持ってきて見比べることで背景にあることを自分の脳でイメージすることができたと考えています。またワークショップの中で考えを引き出す手法についても勉強になりました。
- 今回参加してみてさまざまなルーツやアイデンティティを見てみて新鮮な気持ちになることができました。
- 個人の経験や価値観を話せる場になっていたのが印象的でした。
- とても楽しくて、勉強になったアクティビティでした。これからの業務でも簡略したバージョンでやってみたいと思います。
- 人の人生と比べると自分の大切にしていることとか好きなことがみえてくる。（自分一人だと当たり前で気づかない）人と比べることはネガティブな意味で使われることが多いが、想像性が豊かになり、共生する上でとても大切だと感じた。